

広島市で実施している 平和教育について

令和7年8月18日(月)
広島市教育委員会
学校教育部
指導第一課・二課



広島市の平和教育の目標と取組

目標

ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。

平和教育プログラム

継承

- ・ 被爆体験を聴く会
- ・ 平和を考える集い
- ・ 平和教育アーカイブス

発信

- ・ こどもピースサミット
- ・ ひろしま子ども平和の集い
- ・ 「平和への誓い」アクションプログラム
- ・ 伝えるHIROSHIMAプロジェクト
- ・ 高等学校の特色ある取組

平和教育プログラムについて

学校における平和教育の取組を充実させるため、**小学校**から**高等学校**までの**12年間**を通して、児童生徒の発達段階に即した目標や内容を**体系化**した学習プログラム。

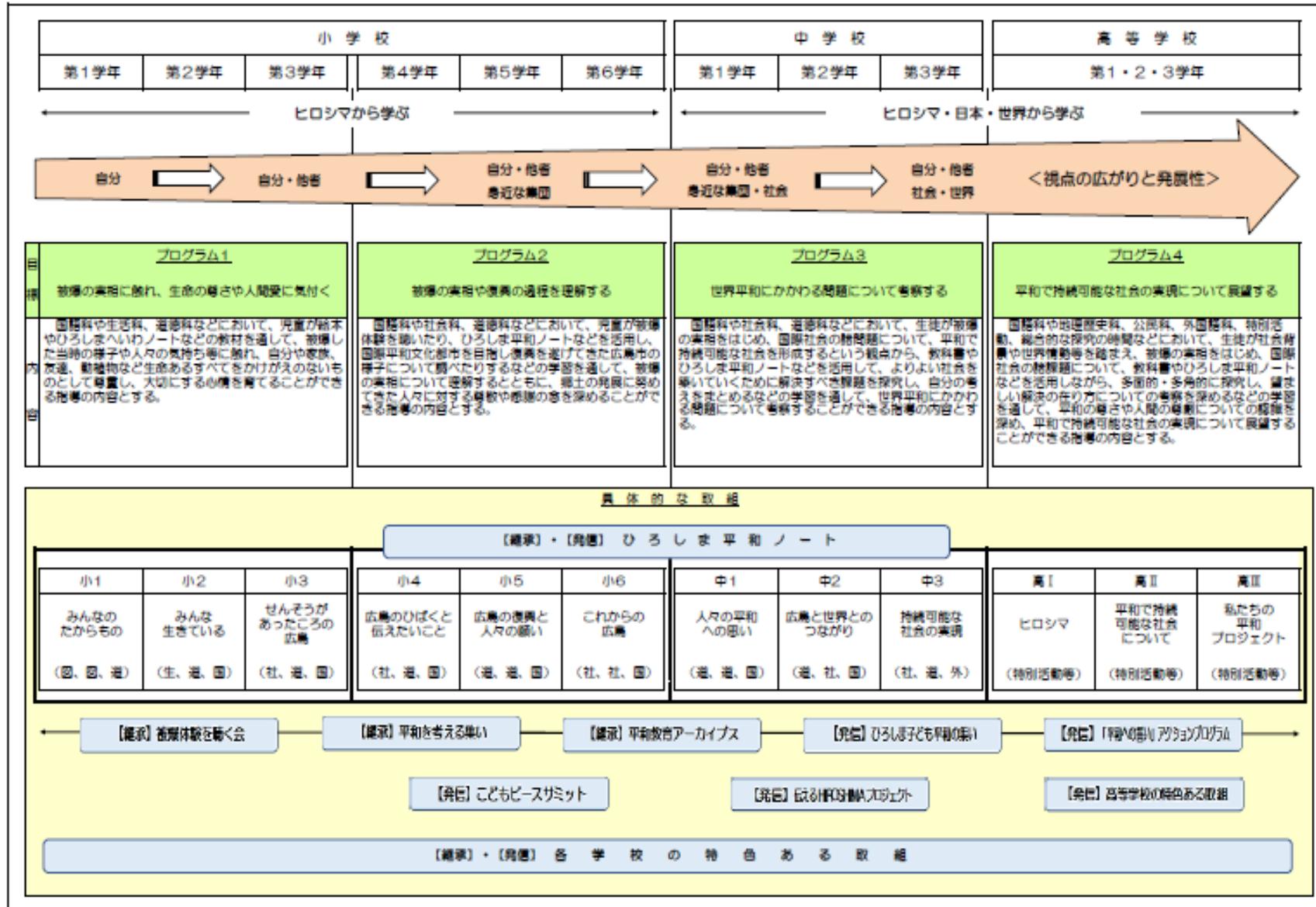


平和教育プログラム策定の基本方針

- **発達段階**に即した目標・内容を設定
- **未来志向**の学習内容
- **自主的・自発的**な学習を重視
- **国際社会**の諸問題を探究する活動



平和教育プログラムについて



ひろしま平和ノート



プログラム1
小1～小3



プログラム2
小4～小6



プログラム3
中1～中3

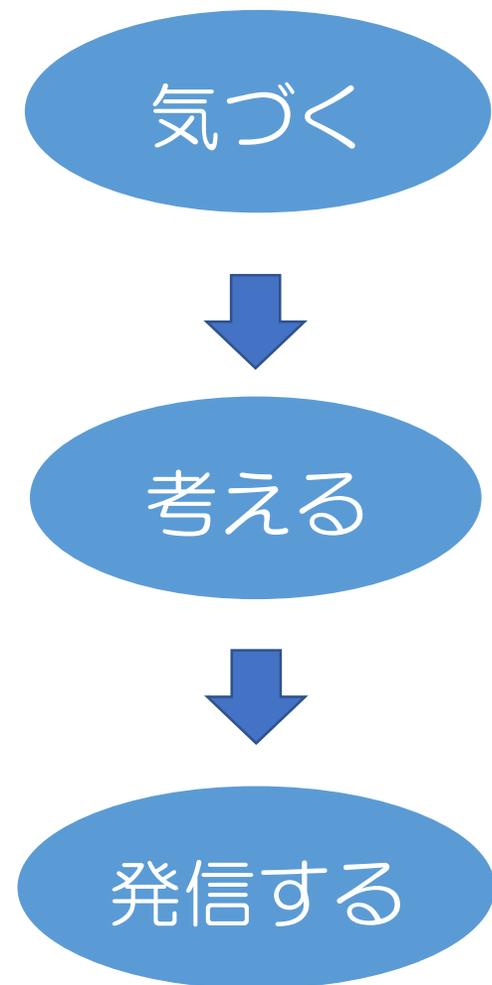


プログラム4
高1～高3

ひろしま平和ノート 単元の流れ



| | 小学校 1・2・3年 | 小学校 4・5・6年 | 中学校 | 高等学校 |
|------|---------------|---------------|------|-------|
| 学習 1 | 気づく | 気づく | 知る | 情報整理 |
| 学習 2 | 考える | 考える | 思考する | 思考・探究 |
| 学習 3 | 伝える | 発信する | 発信する | 発信 |



広島市の平和教育の目標と取組

目標

ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。

平和教育プログラム

継承

- ・ 被爆体験を聴く会
- ・ 平和を考える集い
- ・ 平和教育アーカイブス

発信

- ・ こどもピースサミット
- ・ ひろしま子ども平和の集い
- ・ 「平和への誓い」アクションプログラム
- ・ 伝えるHIROSHIMAプロジェクト
- ・ 高等学校の特色ある取組

継 承

① 被爆体験を聴く会

広島市立幼稚園、小・中・高等学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校において、地域の被爆体験者等を講師として招聘し、被爆体験を聴く会を開催しています。



② 平和を考える集い

広島市立小・中学校において平和記念日である8月6日に焦点を当てた平和を考える集いを開催し、平和記念日の意義について指導するとともに、学校や地域の特色を生かした創意工夫のある平和学習を行っています。



継 承

③ 平和教育アーカイブス

各幼稚園・各学校における児童生徒の学習教材や教職員・保護者の研修用資料として活用することができるよう、平成20年度より、毎年、被爆体験者2名の証言を映像記録としてデータ化しています。



広島市の平和教育の目標と取組

目標

ヒロシマの被爆体験を原点として、生命の尊さと一人一人の人間の尊厳を理解させ、国際平和文化都市の一員として世界恒久平和の実現に貢献する意欲や態度を育成する。

平和教育プログラム

継承

- ・ 被爆体験を聴く会
- ・ 平和を考える集い
- ・ 平和教育アーカイブス

発信

- ・ こどもピースサミット
- ・ ひろしま子ども平和の集い
- ・ 「平和への誓い」アクションプログラム
- ・ 伝えるHIROSHIMAプロジェクト
- ・ 高等学校の特色ある取組

発信

① こどもピースサミット

広島市内の小学校6年生児童を対象に、平和についての作文を募集し、選考された20名の児童が意見発表を行い、平和記念式典で「平和への誓い」を読み上げる代表児童2名を決定します。その後、選考された児童が検討会議で「平和への誓い」を作成し、8月6日には、平和記念式典において、代表児童が「平和への誓い」を世界に発信します。



発信

② 全国こども平和サミット・広島こども平和サミット

参加を希望した広島市内及び市外の児童生徒が、言葉や音楽、演劇などで平和への思いを発信し合っています。



③ 「平和への誓い」アクションプログラム

広島市立幼稚園、小・中学校、広島中等教育学校、広島特別支援学校を対象に参加を募り、希望した各幼稚園、各学校が平和交流会やテレビ会議等を開催し、平和へのメッセージを発信しています。



発信

④ 伝えるHIROSHIMAプロジェクト

広島市内の中学校を対象に参加を募り、各学校での平和学習や教育委員会が開催する研修会を通して、平和の思いを込めたメッセージを英語で作成し、平和記念式典に参列する各国駐日大使や海外の一般参列者に伝えています。



⑤ 高等学校の特色ある取組

広島中等教育学校では、広島を訪れる外国人観光客に対して、英語で平和公園を案内する「ガイドボランティア活動」に取り組んでいます。



学校における平和教育の取組



学校で行う平和学習プラン（例）

学習プラン①（小学校）

学習プラン②（中学校）

学習プラン③（高等学校）



学習プラン①(小学校)

原子爆弾が投下前後の様子を比較したり原子爆弾の影響を調べたりすることを通して、原子爆弾による被害について知ることができる。

学習1 広島ひばくとひがひ

原子爆弾が投下されたころの様子やひがひについて調べよう。



▲原子爆弾が投下される前の広島

★まちなかを見て、気づいたことを書きましょう。

タブレットで写真を大きくして調べてみよう。



広島に原子爆弾が投下されたのはいつでしょうか。

19 (昭和) 年
 月 日 午前 時 分

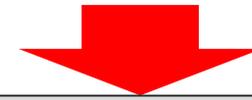


▲原子爆弾が投下された後の広島

★まちなか、どのように変わったのでしょうか。

【内容】

- ・被爆前と後で町の様子はどのように変わったか
- ・原子爆弾による被害(熱線、爆風、放射能)
- ・長崎の被爆の事実



さらに、詳しく学ぶために

- ・平和学習出張講座(県外出張可能)
- ・被爆体験講話(VTR貸出可能)
- ・平和記念資料館見学

学習プラン②(中学校)

佐々木禎子さんや藤井幸子さんの生い立ちを通して、核兵器がもたらす影響について考えるようにする。

学習1 次世代へのメッセージ

被爆の実相を継承していくことにはどのような課題があるのか考えよう。



1945（昭和20）年8月6日、原爆が投下されました。家族と共に爆心地から約1.6kmの福木町の自宅で被爆した禎子さんは、爆風で屋外まで飛ばされましたが、禎子さんはお母さんに背負われ避難しました。その際、三篠橋付近で「黒い雨」に打たれました。

佐々木家は1947（昭和22）年に新たに市内に児童館を開き、生活に落ち着きを取り戻していきました。禎子さんも元気に育ち、稚小小学校に入学しました。

1954（昭和29）年11月下旬、禎子さんは軽い風邪をひき、首や耳の後ろにいくつかしこりができました。徐々にしこりは大きくなり、おたふく風邪のように顔がはれました。1月末には左足に紅色の斑点が見られました。

当初は風邪と思っていたのですが、検査をした結果、「白血病」と診断されました。禎子さんは、2月21日に広島赤十字病院に入院しました。

入院から約1か月後、禎子さんはクラスの友達と同じく中学校に進学したものの、通うことはできませんでした。8月6日、外出許可をもらって家族で平和記念式典に参列することになりました。しかし平和記念公園に向かう途中、禎子さんは困るから出直し、体調を崩したので式典には参加せず、すぐに病院に戻りました。

9月末、入院以降三度目の白血球の増加が始まりました。次第に自分では歩けないほどに、体調は悪くなりました。10月25日の朝、家族が見守る中、亡くなりました。12歳でした。

（広島平和記念資料館Web Site「平成18年度 第1回企画展をもとに作成」）

焼け焦らした少女の死 ～藤井幸子さん10歳（被爆時）～

当時10歳だった少女は、爆心地から約1,200メートルの自宅で被爆しました。1階で、強烈な熱線を浴び、爆風で飛び散ったガラス片で負傷しました。火災の直前に倒壊した家から家族と共に脱出しましたが、直接熱線が当たった右手に重い火傷を負い、終戦直後にくっついた指を切り離す術を受けました。

やがて少女は成長し、結婚後2人の子どもを育てながら幸せに暮らしますが、30代になり、がんにはまされました。

広島原爆病院で手術を受け、持ち直しましたが、がんの転移により体調不良が続くようになり再入院しましたが、1977（昭和52）年に42歳で亡くなりました。

（広島平和記念資料館「平和の記憶」をもとに作成）



初めて広島平和記念資料館を訪れた海外の人々からは、「原子爆弾は一度拝見したら、その時の被害で終わりと感じていた」という感想が多くあります。このような感想に対して、あなたの考えを書いてみましょう。



メモ

【内容】

- ・佐々木禎子さんの話
- ・藤井幸子さんの話
- ・被爆の実相を継承するために



- ①「原爆の子の像」碑前祭への参加
- ②外国人観光客との交流

- ・英語で平和のメッセージを伝える。
- ・アンケート



観光客との交流

広島平和記念資料館ホームページにも被爆の実相を語る 様々な資料があります。

The screenshot shows the 'Kids Peace Station' (キッズ平和ステーション) page. The main heading is 'ヒロシマから' (From Hiroshima). The text reads: '広島市は、地球上ではじめて、原子爆弾(げんしばくだん)が落とされたまちです。その大きな悲けきをおして、私たちは、戦争のむごたらしさ、かく兵器のおそろしさ、そして平和の大切さをあらためてかくにんしました。地球上のすべての人がおだやかにくらせる日まで、私たちは、ヒロシマから世界へ、平和のメッセージを発信しつづけます。' Below the text are three icons: a girl's face for '21世紀 サダコストーリー', a tree for 'サダコと原爆', and four children for '「放射線」のこと、知りたい!'. A footer contains contact information for the museum and a copyright notice: '*当サイトの写真・文章の無断転載はできません。*Copying photos and sentences without permission is prohibited.'

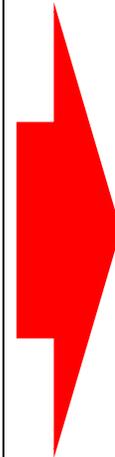


※ 広島平和記念資料館HPキッズ平和ステーション

平和な世界を実現するための「自分発」のプロジェクトを提案する。

＜学習の流れ＞

- ① 自分にとっての「平和」とは何かを考え、その実現に向けた取組を考える。
- ② グループで話し合い、意見交流を行う。
- ③ グループ内でプロジェクト案をひとつにまとめる。



私の平和プロジェクト

- プロジェクト名
- プロジェクトの目的
- プロジェクトの主体
- 活動内容・方法
- 活動場所や活動期間
- 必要なもの（必要な経費）
- 活動の成果の還元・発信方法
- その他

（ひろしま平和ノート高等学校）

<取組例>



○ピースデパート(広島商業高等学校)

- ・ 販売実習で、平和学習の成果などを発表する平和企画展示やモニュメントの作成、折り鶴体験コーナーやピースシアターの運営を行っている。
- ・ 折り鶴を活かしたグッズなどを作成し販売している。
- ・ 利益の一部を広島・長崎両市の平和事業へ毎年寄付したり、災害被害の復興支援として寄付したりしている。

販売実習を通して、平和を発信



○銅版折り鶴の作成(広島工業高等学校)

- ・ 板金の技術を活かし、技術の継承として、銅板を加工し折り鶴を作成している。
- ・ 銅板折り鶴は、ピースデパートに参加し、現地で製作・販売し、収益を広島平和記念資料館に寄付したり、本市を訪れた海外の政治家等へ贈呈したりする活動を行っている。

技術を活かして、平和を発信

令和7年度 平和学習講習会



令和7年8月18日(月)
広島市教育委員会
学校教育部
指導第一課・二課